

リニューアルした「彩の国地鶏タマシャモ」

本県のブランド地鶏「彩の国地鶏タマシャモ」は、1984年に原種を開発し、1991年から肥育用ヒナを県内の生産者に供給しています。飼育期間が150日以上と一般的な市販若鶏の約3倍のためコストはかかりますが、プリプリとした歯応えや濃厚なうま味から高い評価を得ています。しかし、開発から30年以上、限られた集団の中で繁殖を繰り返してきたため血縁が濃くなってきました。そこで、2015年度から他系統を交配した改良に取り組み、この度リニューアルしました。改良鶏は増体性に優れ、飼育期間短縮によるコスト削減が図られます。今後、普及と需要の一層の拡大を目指します。



大シャモ



大和軍鶏



ニューハンプシャー

タマシャモ原種

1984年完成

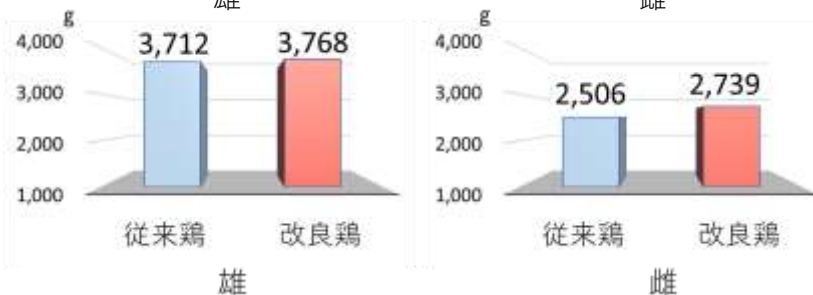


タマシャモ原種は、大型で肉質の優れた大シャモ、胸の厚みのある大和軍鶏、産卵性の優れたニューハンプシャーを使用して交配を重ね、1984年に完成しました。

今回、タマシャモ原種に肉質や増体性に優れた純系シャモを交配し、改良鶏を生産しました。



143日齢の従来鶏と改良鶏



143日齢の従来鶏と改良鶏の平均体重 (g)

改良鶏の平均体重は従来鶏に比べ大きく、143日齢で出荷可能なサイズに到達しました。このように改良鶏は増体性に優れており、飼育期間を従来の150日以上から140日以上に短縮することでコスト削減が図れます。